

R6 年度学校評価アンケート結果

県立西宮甲山高等学校

- 1 実施日 令和6年1月
- 2 回答者・回答率 生徒304人(80%)・保護者41人(11%)・教員 36 人(100%)
- 3 評価段階 4:そう思う 3:どちらかといえばそう思う
2:あまりそう思わない 1:そう思わない
- 4 総合評価 A:達成している(3.1<A≦4.0)
B:ほぼ達成している(2.6<B≦3.1)
C:努力を要する(1.0<C≦2.6) (評価は4点満点)
- 5 公開方法 第2回学校評議員会終了後、HPで公開
- 6 内容

(1)生徒・保護者

項目	保護者	評価	生徒	評価
1 学校は配布物やホームページで十分な情報を伝えている。	2.7	B	2.8	B
2 学校は生徒の安全に配慮した指導を行っている。	2.9	B	3.0	B
3 学校は防災教育と安全な環境整備にしっかりと取り組んでいる。	2.9	B	2.9	B
4 学校はバス通学について臨時バスなど適切な調整を行っている。	2.5	C	2.7	B
5 教員は、いじめの未然防止やいじめが起きたときに適切に対応している。	2.6	B	2.8	B
6 学校は生徒が意欲的になるような授業の工夫や研究に努めている。	2.8	B	2.8	B
7 教員は生徒の理解に合わせた授業を行っている。	2.9	B	2.9	B
8 教員は授業のルールやマナーについて粘り強く指導している。	2.7	B	3.0	B
9 教員は生徒の話を丁寧に聞いている	2.9	B	2.9	B
10 学校は地域貢献やボランティア活動をする生徒の取組みを支援している。	2.9	B	2.8	B
11 甲フェス(文化祭)、体育祭、KBCは有意義な行事である。	3.4	A	3.2	A

12 部活動は生徒の主体性自主性を尊重した運営を心がけている。	3.0	B	2.9	B
13 学校は人権学習の機会を適切に設けていた。	2.8	B	3.0	B
14 学校は困った時に相談できるような体制が学校にある。	2.8	B	2.9	B
15 学校は生徒が間違っことをしたときにきちんと指導してくれる。	2.9	B	3.0	B
16 学校は SNS などインターネット活用の意義と危険性を指導している。	3.0	B	3.0	B
17 進路補習が適切に設定され、効果を上げていた。	2.6	B	2.8	B
18 進路指導室は充実した設備と内容を整えている。	2.7	B	2.9	B
19 進路に関する講演会や LHR は将来を考えるのに効果的であった。	2.7	B	2.9	B
20 学校に自分の居場所があると感じる。	3.0	B	2.9	B
21 西宮甲山高校に入学して人間的に成長できたと感じている。	2.9	B	2.9	B
22 西宮甲山高校に入学して良かったと感じている。	3.3	A	2.7	B
23 教育総合類型に所属できてよかったと感じている。	3.2	A	2.9	B

(2)教職員

項目	教員	R6	R5
1 教育課程の工夫 生徒の能力・適性、興味・関心、進路等に応じた教育課程を教科横断的な視点から編成し、組織的な授業改善や効果的な人的・物的・資源の活用する。	2.9	B	A
2 個に応じた学習指導習熟度別 少人数授業の導入により、個に応じた学習指導の実践と、基礎学力の伸長を図る。	3.2	A	A
3 きめ細かな学習指標 特別支援教育やユニバーサルデザインの視点から全ての生徒にわかりやすい授業を展開する。	3.1	B	B
4 学年・教科間の共通理解 教科指導委員会で学年・教科間の連絡と調整を密にし、共通理解を深める。	2.8	B	B
5 情報活用 ICT 機器を活用した学習活動や支援を効果的に実施し、生徒が主体的に活用する能力の育成と情報モラルの向上を図る。	3.0	B	B
6 探求情報活用 探求活動の推進・課題解決能力の育成	2.8	B	B
7 キャリア教育の推進 校内の体系的・系統的なキャリア教育を組織的に推進し、社会的・職業的自立の基礎となる基礎的・汎用的能力を育成する。	2.9	B	B
8 生徒の健康安全 生徒が心身共に健康で安全な学校生活が送れるように配慮した指導と救急法などの講習会を計画的に実施する。	3.3	A	A
9 生徒の健康安全 感染症に関する正しい知識や理解を深め、予防について指導するとともに、感染予防対策を講じる。	3.1	B	A
10 バス通学 登下校の通学バスについて計画し、適切な調整を行う。	3.1	B	A
11 人権教育 自他の生命と人権の大切さを「体験的参加学習」で理解させ、共生できる心を育む。	3.0	B	B
12 学校いじめ防止基本方針 毎年見直しを行い年間計画を作成し、いじめの未然防止、早期発見・早期対応を行う。	3.2	A	B

13 生徒指導 生徒心得(校則)の周知徹底を行い、当たり前 のことが当たり前できるように指導を行う。	3.0	B	B
14 生徒指導 SNS 等の使用においてはネットリテラシーを 高め、スマートフォン等の適切な使用が できるよう指導する。生徒心得(校則)の 周知徹底を行い、当たり前 のことが当たり前できるように指導を行う。	2.8	B	B
15 ホームルーム活動 ホームルームが人間的なふれあいの場 であり、ともに成長していける場となる よう指導する。”	3.1	B	B
16 防災教育 防災教育・訓練にしっかり取り組み、 生徒の防災に関する意識の高揚を図る。	3.1	B	B
17 学校行事・式典 各行事や式典の計画・運営を適切に行 い、生徒のけじめある態度の育成に努 める。	3.2	A	B
18 三大学校行事 生徒が KBC、甲山フェスティバル、 体育大会を主体的に取り組み、活気あ る充実した行事とする。	3.4	A	A
19 部活動 積極的に部活動を奨励しその活動を支 援する。	2.5	C	C
20 魅力アップ事業(インスパイア―ハイ スクール)事業 特別非常勤講師による学校設定科目や 心の LHR の実施等の教育総合類型の 活動を充実 させる。(手話・和楽器・ 心理学など)	3.2	A	B
21 ふるさと貢献事業 ふるさとクリーン DAY の実施、地域 清掃ボランティアなどによる地域貢献 活動を充実させ る。	2.9	B	A
22 ふるさと活性化事業 ふれあい農園や幼児向け自然体験プ ログラム 地域行事への参加など地域 活性化支援隊 活動を充実させる。	3.4	A	A
23 ふるさと活性化事業 奄美大島修学旅行を活用した友好都 市交流活動による地域活性化を図る。	3.0	B	A

項目	教員	R6	R5
24 高校生就業体験 職業インタビューや保育園インターンシップ、企業等の職場体験などを円滑に実施する。	3.3	A	A
25 生徒一人一人に応じた教育活動 生徒の様々な課題の改善を「通級」等により生徒の教育的ニーズに応じて行う。	3.4	A	A
28 進路指導の充実 の進路希望を実現するため、補習や模擬試験等の活用で学力向上を図り、ガイダンス や進路講話等を通して情報発信と適切な指導を行う。	3.2	A	B
29 国際理解・グローバル化対応国際交流活動や外国語教育の充実から異なる文化や価値観を理解し、多様性を尊重する グローバル人材を育成する。	2.8	B	B
31 生徒・保護者への情報発信 生徒、保護者への配布物やホームページメール配信等で十分でわかりやすい情報発信を図っている。	3.0	B	B
32 学年・部・事務室間の調整と連携 職員の打ち合わせ、学年会、部会、校運・職会などにより各部署間の調整と連携を図る。	3.0	B	B
33 働きやすい職場環境 職場の勤務時間の適性を適切に実施している。	3.1	A	C
34 働きやすい職場環境 衛生委員会において、業務改善と職場環境の整備・メンタルヘルスの増進を図る	3.0	B	B

令和 6 年度学校評価まとめ

県立西宮甲山高等学校

本校の教育目標に基づき、生徒・保護者・教職員に学校評価アンケートを実施している。

今年度の回答率は生徒80%、保護者は11%、教職員100%であった。

□生徒・保護者アンケートについて

アンケートの質問数を減らしたことで、生徒の回答の有効回答率が90%示し回答率は80%と改善された。また、生徒と保護者の評価が一致している項目が多く見られた。保護者の回答率は低いものの、回答のあった家庭では、保護者との学校生活についての会話があり、話題を共有できていると考える。

□教職員アンケートについて

今年度、本校の働き方改革は着実に進んでいる。夏季休暇取得率100%、ストレスチェック、ICT 調査アンケート、学校評価すべてにおいて100%の回答率を達成し、大幅な改善が見られた。一方で、仕事の偏りを負担に思う教員の声も聞かれるようになっていきます。こえてきている。この状況を小さいうちに解消したいと考えている。

□来年度に向けて

令和 8 年度末の閉校に向けて、行事などの継続的な取組はしていきたいと考えている。しかしながら、生徒減・教員減の中、今まで通りに行かない面も多い。学校評議員の方々からは大人になる準備として、パーソナルスペースの理解、生徒の自己肯定感の向上が必要であるとのご意見や生徒に寂しい思いをさせない配慮、生徒の進路実現が狭まらないようにとのご意見をいただいた。地域貢献などできることは協力させてもらうという声もいただいた。

41、42 回生には「甲山に来てよかった、これができるようになった」という思いを持たせて卒業をしてもらいたいと考えている。そのためには職員一丸となって学校の課題、生徒の進路実現、自己肯定感の向上に向けて力をいれる必要がある。